

# 沼津高専同窓会だより

沼津工業高等専門学校  
 同窓会  
 〒410 沼津市大岡3600  
 沼津工業高等専門学校内  
 ☎ <0559> 21-2700  
 印刷所 緑プリント  
 ☎ <0559> 21-1839



創立10周年記念同窓会総会記念

## 同窓会総会を終えて

同窓会長 鞠子 誠

わが同窓会も、第1回の卒業生の方々のお骨折りによって充足以来、早、7年目を迎えて、先輩の方々のおかげでくれた礎の上に、確実に根をおろしました。

ご存知のように、昨年11月3日、母校の創立10周年を期して、同窓会総会を開催いたしました。

総会は二百数十名という多数の会員の出席と数十名の特別会員（本校の教職員ならび旧教職員）のご列席により総勢 300余名の盛会でした。議事はスラスラと滞りなく終了、引きつづいて懇親会に移りましたが、なつかしい旧友、お世話になった教職員の方々との歓談に時を忘れ、興は尽きず、予定の時間も超過してしまいました。

総会については、別に総会記事がありますので、その方で、ご承知いただけます。

総会に出席された方々は、口々に、来てよかった。もっと時間がほしかったと、感慨をもらしておりました。これだけでも、私たちは、一応の成果があったと思います。理事一同、今回の総会の開催について、及ばずながら、苦勞したことも報いられたと思います。また、今

回、この総会を開いたことが、今後の同窓会活動に多大の力を与えてくれるものと信じております。総会に引きつづいて行なわれた懇親会のあの感激、あの感動が、沼津高専同窓会の前途を祝福しているかのようには思えました。

総会を終えて、ふりかえって見て、われわれの同窓会は、会員の一人一人の自覚と、会員相互の理解と信頼の上の協力によって成り立つものであり、決して他人まかせでは育つものでないと云うことを銘記しなければならぬと、強く感じました。

わが沼津高専同窓会のより一層の発展を確信し、今後の同窓会活動に対しては、皆様方の一層のご理解とご協力をお願いしたいと存じます。

ご都合で、総会に出席できなかった方々にも、次回には、万障お繰り合わせ、ご出席下さるよう、また、時折り、母校をお訪ねして、なつかしい教職員の方々に、近況を知らせたり、母校発展の様子をご覧になれることを、おすすめておきます。

## 卒業生の皆さんへ

学校長 土井 静 雄

その後御健勝に御過しのことと思います。昨年11月3日同窓会総会が開催されました節は、御多用中のところ多数御参集され盛会であったことを嬉しく思っています。久々に皆さんにお目にかかったこと、及びその後の本校の教育施設の整備を御覧頂くことに大きい喜びを感じました。

さて現在の工業界は各方面にわたり流動的であってお仕事がお忙しいことと思います。どうか専門のその道に徹せられることを切望します。

昭和の初期を顧りみますと、技術開発のアイデアはフランス人によって創造され、それがドイツに輸入されて実用化されると云われていました。我国の現在の経済発展は、米国からのライセンスの導入に負うところがかなり大きいと思います。将来は米国からの導入は困難になり、我国における創造性の重要さが益々重くなると感じられます。したがって学校教育も詰め込み主義の勉強よりも、創意工夫への関心を一層持つようにありたいと思うものであります。



## 同窓会総会の報告

同窓会事務長 水上 重 徳

母校の創立10周年記念同窓会総会は、11月3日午後一時半から、新寮大食堂において開かれました。母校からは、土井校長先生、世話教官の方々をはじめ、多数の教職員の方々に、さらに旧教職員の方々もご出席下され、総数300名におよぶ盛会でした。

司会は小川理事(E5)が当り、会長鞠子君(M5)の挨拶に続き、議長に、初代会長木の内君(M1)が選ばれ、書記を前会長加藤君(E4)にお願いして議事に入りました。副会長中村君(C2)から業務報告、事務長水上君(E5)から会計報告があり、提出された予算案も問題なく可決承認されました。次いで同窓会運営上のネック解消のための、会則改正案の説明が、鞠子会長からなされ、これは、本会活動の円滑化のための改正であるということで満場一致で可決されました。以上で、議事を終り、引き続き懇親会に入った。昔懐かしい土井校長先生の祝辞、旧教職員を代表して、深尾先生のあいさつ。木戸教官から同窓会世話教官のご紹介があった後、

佐野真一君(E1)の音頭で一同乾杯。懇親、歓談に入った。在学時代の昔に戻って、在学時代のこと、クラブのこと、今の勤めのこと家庭をもった人の話、こどもの話、はるばる九州から出席した人、北は北海道から南は九州沖縄といった感じで意義深いものでありました。この間に、記念撮影も行われたが、全員一べんにとれないので、それぞれ科別、回次別で3回にわけて撮影した。興はいつまでもつぎることなく、予定の時間も超過して、終りに校歌斉唱で最高潮に達しました。最後は、湯山孝雄君(M1)の音頭で万才三唱、めでたく会を閉じました。

そのあとも、二次会に、古巣沼津にそれぞれ名残りを惜しんだ様子でした。会員の皆さん、それぞれ胸にアツイものを感じたことと思います。

当日の準備受け付けについても、ずいぶん混雑し、大変でしたが、世話教官の方々、また関さん、中村さん、そのほか教職員の皆さん、労をいとわずご協力下さいまして、ほんとうにありがとうございました。同窓会として深く感謝する次第です。

## よき「蔽入り」の日を

一世話教官として

市川良輔

今の時代の会員諸君にはなじみやすい言葉だろうが、日本の古いしきたりの一つに「蔽入り」ということがある。封建時代の遺制かも知れぬが、昔は、商家などに徒弟奉公したものが一年に一回か二回、きめられた日に主家から暇を与えられて、何よりも親もとに帰ってその成長の過程を親に見せ安心させる日を「蔽入り」と称し、親も子もこの日を心から待ちこがれ楽しみにして働いていたものだったという。もちろんぼくなど全く経験はないのだが、「蔽入り」の日の親と子の気持ち、つまり子が自分の成長の姿をさわやかに親に報告し、親が限りない愛情からの安心と期待を深めるということならば、これは美しい人情の真相だと云ってよいと思う。

実は、ぼくの前任校の某校長は、学校にとって同窓会の貴重さや意義の深さをよく説く人だったが、ある総会の時、この同窓会総会というのは、会員にとってはいわば「蔽入り」の日なのだから、心底から大切にしなければならぬのだと言ったことがあった。その時からぼくはぼくに、うまいたとえであり、いい寓意だと思った印象が頭にこびりついて離れず、同窓会というすぐいい「蔽入り」であり、実のある「里帰えり」たらしめるような「総会」から出発すべきではないかと、常々思っていた。

前任校はぼく自身の母校でもあったので、在職教官でありながら同窓会員でもあるという立場で、着任から離任まで終始、それが自他共に当然のこととして、校命による同窓会の事務や世話一切を分掌させられた。まがりなりにも同窓会というものの本質的使命やまた運営方法や存在価値の認識など、文字通りプラスマイナスともに

否応なしに学ばされてきた。その過程で、同窓会というものの意義は絶対で、学校運営の一環として公然たる校務の分掌であってよいという、ぼくなりの見解は変わらない。

ゆくりなくも、今年度当初に沼津高専同窓会の正式な世話役というものを学校から命ぜられた。こんな仕儀と見解から、ぼくたちの第一の目標は、恰も創立10周年を期して、同窓会の母胎をしっかりと定着させること、そしてそれには先ず正式に、よい「里帰えり」の場とよい「蔽入り」の日を設定することだとばかり、及ばずながら理事諸君や他の先生方にくみして、11月3日の盛会を目ざした。

手前味噌だが、たしかに第一回の正式な「蔽入り」は予想以上の盛況だったと思っている。だからこれに味をしめて、今後いよいよこの「蔽入り」の快きを深めてゆきたい。

## この10年

柳瀬晴海

おもえば、岡宮から大岡に移転の朝、私の登校第一日であって、それは、38年4月1日であった。岡宮の学校を知っているのは、第一期生諸君だけであるが、今は金岡中学のグラウンドになっていて、高専創立の地を偲ぶものは、なにもない。大岡の校舎は、電気工学科の場合三期位に分けてつくられたと記憶している。製図室、電気磁気実験室、電気機械実験室を一劃とした建物をもって終了したわけである。(但し卒業生諸君のならった三階の製図室を今は電気磁気実験室として使用している)

私は、48年3月をもって10年。40代の10年間を本校と共にあったことは、私の人生においても重大なことと思う。この間、学科主任を7年程やったので、第1期生諸君の就職のことから始まって、実験室の整備、拡充等それぞれについて、そのことの時点において非常に苦労したこともあったが、ふりかえって見ると、自分ながら、



よく全力シユートしたと思っている次第。45年夏、病気のため入院した。諸君の中には「ははあ、先生飲み過ぎたな！」と思うかも知れないが、いろいろな意味で、つかれてしまった感じだった。

卒業生諸君、私は授業中によく次のようなことを云ったと覚えている。

君達は同クラスの中の横の一点であり、同窓生として見るときは、縦の線の一点である。そして、卒業して社会にでたとき、さらに年をとればとる程、その関係の深みは深くなる。そして高専同窓生の一員としてのプライドをもってもらいたい。なおかつ、後輩をまた学校を愛してくれたまえ、と。

今後、卒業生は多く出てゆく訳であるが、先輩諸君、巣立って社会に出てゆく後輩を、あるときは叱り、またある時は Trinken にもつれていって、人生の青春のよさを教えてやってくれたまえ。

## 所感と近況報告

電気工学科 川井 晴雄

本校の卒業生も来る3月卒業予定の第7期生を入れると約900名となり、質量共に充実の度を加えるに到りました。昨年の本校創立10周年記念を契機として同窓会の組織強化の意欲は活発となり、同窓生と学校とのつながりも一段と緊密化し着々とその成果を挙げつつあることは誠に御同慶に耐えませんが。

早いもので、卒業生の中初期の人は母校を離れてから5年ないし6年になり、今や立派に社会人として活躍されております。卒業生の皆さん、どうか今後一層同窓会に対する関心と愛情を深められ、その発展のために積極的に行動されるようお願いいたします。およそ学窓生活の思い出は楽しかったことも苦しかったことも生涯を通じ最も印象の深いものでありますが、それだけに同窓の絆は何物にも増して強いものがあります。皆の力を結集し

て是非立派に同窓会を盛り育てたいものです。

電気工学科の近況を申し上げます、現在の人員は11名で皆張切ってやっております。最近、実験研究施設として待望の電力係統シミュレータを備えることができました。本装置は電力系統の諸問題を解明するのに欠くことのできないものです。御来校の節は是非見て下さい。終りに卒業生の皆さんの健康と奮闘を祈ります。

## 卒業生の皆さんへ

川松・村松

本校も間もなく第7回目の卒業生を送り出す時期になりました。工業化学科は4年おくれて充足したため、今回は第3回の卒業生ということになります。

学校出たての頃は、同窓会といってもそれほどの親近感はないかも知れませんが、年を経るにつれてその感は強くなるものです。いわゆる同じ釜の飯を食べたという感じで自然に親しみが湧いてくるのが人情というものでしょう。特に同じクラブで過した人達にはその感が深いと思います。沼津高専を卒業した多くの人たちが、このような感じで、地域的にも折集まっの歓談、憂さがあってもそれを解消させるなど、個人的にも楽しいことであり、勤務の面でもプラスになることが多いと思います。本校の同窓会は充足したばかりで、組織作りもこれからですが、健全な発展を祈ってやみません。

工業化学科の卒業生の様子についていえば、大部分の人たちは、始め就職したところで張切ってやっているようですが、特殊な事情で職を変えた人が、もう数名おります。このようなことは、家庭の事情、本人の志望の変化などで、止むを得ないことと思いますが、併し、今の世間では、求人難といいいながら、適当な職となると、なかなか無いものです。たとえ若さに溢れていても、職が変わるときには、余程慎重に考えてしなければならないでしょう。



在校生も、一応元気で、特に卒業を間近に控えている5年生は、目下、卒研のまとめで多忙です。本年度の就職状況は、特に化学関係においては、業界の景気回復があまりはかばかしくないことが反映してか、今までとはちがって、好況とはいい難く、第一志望の化学会社に就職できなくて、他産業にまわった学生もかなりおります。

来年度の5年生にもやはり、厳しい就職状況が予想されますが、できるだけ多くの学生の志望がかなえられるように願っています。

何事も始めが大切で、そのときの心構え如何が、あとになって、随分と違ってくることが多いものです。どうか卒業生の皆さん、元気で頑張って下さい。

## 世話教官の一人として

同窓会は、その目的が、営利のためでもなく、組合のものでもなく、同窓生相互の親睦・連絡をはかり、その裡に不知不識に、知識技術の向上も生まれるというところにあるかと思えます。このような同窓会の性格からすると、本校の卒業生は即、同窓会員ということになりましょう。会を組織・運営する以上、相応の経費が見込まれますが、それに充てるものが同窓会費です。

会費を納めないから除名するとか、会費を納めたくないから除名してくれとか、そのようなものではありません。7月には卒業生名簿を、今回は“10年の歩み”、“同窓会だより”等を全会員にお送りしました。今後も、みなさんの意向を伺いながら、より充実した同窓会に育て上げたいと、役員・理事の諸君も張り切っています。最近、印刷経費はもとより、郵送料も馬鹿になりません。同窓会を、よりよいものにしていくのは、会員の皆さん方の力の結集だと思えます。ご理解とご協力が大切だと思います。同窓会会費未納の分については、お序の折りに是非完納していただきたく、世話教官側からもお願いしたいと思います。(F・Y)

## 同窓会のあり方

機械工学科 組 岡 辰 三

学校の同窓会は、卒業生の組織する団体であって、卒業生が自主的に運営すべきものである。本校の同窓会は第1期生の卒業が近づいた昭和42年の1月頃、当時の5年の学級担任であった私と佐々木先生が面倒をみて、機械電気両科から各2名の組織委員を出して、私の立案した会則の原案を審議し、5年の全学生にその案を示して異議のないことを確め、卒業式の前日、全5年生が式の予行のために体育館に集った時、さらに趣意書と会則全文を読み上げて確認の上、沼津三島地区就職者が役員となり、木ノ内倫弘君が会長となり、第1期生が卒業と同時に発足したものである。

会は発足しても、社会人1年生の卒業生が直ちに同窓会の運営に当ることは不可能であり、将来卒業生が社会的地位も得て、独立独歩で会の運営ができるようになるまでは、学校の当局者は、この会を暖く庇護育成する道義的な責任があるのである。

私は1期生が卒業して最初の1年間は、個人的に同窓会の面倒をみて、同窓会誌の創刊号も出したが、ある事情から、同窓会からは一切手をひいて以来、今年度の学校創立10周年記念行事が行われるまで、本校の同窓会は休眠状態にあったことは周知の事実である。

今後本会が同窓会らしい活動をするためには、まづ会の事務の実務処理体制を確立した上、適当な事業を行いあわせて会の経理を明確にして、毎年その事業と会計の収支決算を会員に公開することと、会員の異動を明確に把握することが実現しない限り、有名無実の同窓会になることは明らかである。既にこの3月で900名の会員を持つ会になり、今後毎年増加していくのであるから、役員諸兄は学校当局者ともども、本腰を入れて、会の基盤確立に努力する必要があることを述べておきたい。



### 同窓生の皆さんにのぞむ

学生課長 高橋 実

このたび幹事の方々のお骨折りにより、「同窓会だより」が発行される運びとなりましたことを心からおよろこび申し上げます。

私が学校に赴任したのは昨年の4月です。漸く1年を経過したに過ぎませんので、多くを語るにはあまりにも時間が足りない感がありますが、それだけに却って自分なりの新しい感覚で沼津高専の息吹きに触れることができと思っています。同窓生の皆さんにもできるだけ多く接したいと願っています。

わが沼津高専の同窓会々員は、この3月に百数十名の新卒業生を加えることとなり、もうすぐ1,000名になろうとしています。学校創立以来11年。この間この1,000名近い同窓生が、草創の礎となって、よき校風を作り、輝かしい伝統を築き上げてきた実績を思うとき、感慨一入胸に迫るものがあります。

「若き日の五っ年今ぞ」と、自らを学び舎に鍛錬した学中の生命が、今や斯界に自信をもって躍動していることと慶賀に堪えません。折りにふれ皆さんの卒業後の活躍を耳にすると、同窓生の御健闘と同窓会の御発展を祈念しているひとりとしてこれ程うれしいことはないのです。

同窓生の皆さん!!機会を作って度々母校にお出掛け下さい。元気な姿を後輩に見せてやって下さい。又、長い手紙を下さい。近況をこまごま認めた部厚い便りを下さい。或いは一筆啓上火の用心…式のはがきでも結構ですから、是非投函して下さい。なお多分これから多くの該当者が出てくると思いますが、身上異動がありましたら必ずお知らせ下さい。住所を変更する場合は、役所への届出より先に母校の同窓会本部へ御一報下さい。

「春秋のいそしみ深く、わが希望さだかに遂げん」と今でも口ずさんでいられることでしょう。

御健闘と御自愛を祈っています。

### 全寮制にかける夢

寮務主事 大沼 栄 穂

私は昨年から寮務主事の重任を仰せつかりました。ご承知と思いますが本校は現在、一二年生全員が寮生活を体験するという低学年全寮制を採用しています。したがって私の夢は学生のひとりひとりが寮生活について「良かったな」という実感を持つ、ということです。それに向けて微力をつくしたいと思っています。

15歳から20歳という年齢は大へん重要な時期です。人それぞれの個性がありますが、ほんとうの個性とは集団生活とは矛盾しないもの、むしろ集団生活の中ではなくまれ、みがきかけられるというものではないでしょうか。全寮制とは何かということは、それ故人間性とは何か、青年期の特性とは何かという解答と同じであるというふうに考えています。

先輩諸君の絶大な理解と協力を切に希望いたします。

### 浜松地区忘年会

10周年記念總會のあとをうけ47年の暮れも押しつまった12月9日夜6時30分から浜松市元浜町の割烹「夏代」で恒例の浜松地区の忘年会を行ないました。学校からの大橋、麗美、柳下の3教官を囲み、遠く東三河地区からも有志が数名かけつけ各人の学生時代には見られなかった隠し芸まで飛び出し夜の更けるまで盛大に気えんを上げました。当夜の出席者、以下の通り。

- M1 篠田 敏弘 E1 西野三代治 E4 川合 健治
- M1 鍋田 護 E1 後藤 元臣 M6 増井 康二
- M1 長谷川浩之 E1 田中 昌一 M6 豊田 弘
- M1 湯山 孝雄 E1 中村 友紀 E6 中村 仁
- M1 田代 雅男 M2 大久保英男
- M1 杉浦 滋 M2 大隈 勉
- M1 山本 貢 M3 北川 五一
- M1 大橋 祥明 M4 菅沼 邦安 (篠田記)



## 沼津高専創立10周年と同窓会 木戸義一

昨秋、11月には本校創立10周年を記念して記念式典祝賀会・記念刊行、記念講演、記念植樹、勤続功労者の顕彰表彰、記念品の贈呈配布等が行われ、学生会の参加を得て、校内展示・文化祭・体育祭等一連の行事が行われました。これらについては、父兄会から絶大のご援助をいただきました。学校側、父兄会、学生会心を併せて計画準備に当りました。お蔭をもって、すべて立派に滞りなく取行われましたこと、まことに同慶に存じます。

この10年を契機として、同窓会の基礎固めをしておくことも、一つの大きな事業と考えまして、記念刊行の一つに名簿の完成を期しました。これは7月15日に発行いたしましたして、さっそく同窓会の活動にも役立たせることにいたしました。同窓会員全員にお送りいたしました。

(残念ながら、住所、連絡先きが不明のため消戻されたものが数10部ありました。届いていない方はお申出下さい) また、本校10年の沿革、経緯をまとめ、「沼津高専10年の歩み」を編集刊行いたしました。総会にご出席のみなさんには、全員に送りました。それ以外の方々は、おくれましたが、本日、同封でお送りいたします。読物風には書いてありませんが、沼津高専の歩んで来た姿を偲んでいただけたらと思います。

同窓会の育成につきましては、学校側も力を入れ、特に本年は、同窓会に世話教官がおかれ、これらの先生方が同窓会の運営、計画等についても、相談に預りました。同窓会理事役員の諸君も、非常に熱心に、理事会も20数回に及び、10周年記念の同窓会総会の開催についてはその準備にずい分骨を折りました。お蔭で総会は、多数の参加を得て、大盛会でした。旧友お互いの歓談する場を提供することにもなり、有意義な会合であったと思います。

同窓というものは、年と共になつかしみ、離れて一しお親しみをますものです。時に、地区別でもクラス会同窓会をもって、お互いの歓談の場をつくることをおすすめます。その裡に、不知不識、はげまし、はげまされる、明日への活力を感じるものです。私は、近年、毎年数回は、クラス会とか同窓会に、参加、出席する機会がありますが、いつの会でも、それぞれ立派な生き方をしている方々の話をきき、感心、敬服、はげまされる思いを感じています。

それぞれに歩み来し道 語り合う

それぞれの道の 尊とかりけり

沼津高専同窓会が、基礎を固めて、その上に大きく立派に育つていくことを祈つて止みません。

## 理事会を組織して 水上重徳

本年度の理事会は、47年3月に初会合を開いて以来ほぼ毎週という過酷な日程にもかかわらず、沼津地区在住の理事10数名が、よく頑張ってきました。理事会発足に当たり、顧問教官のことを土井校長先生にお願いに上りました。その結果、5月に入って機械工学科から、木戸教官、組岡教官、柳下教官(本校第1回卒業生)、電気工学科から、川井教官、柳瀬教官、工業化学科から、村松教官、一般学科から市川教官、また事務部から、高橋学生課長と伊東教務係長が、お世話下さることにきまりました。これらの方々には、ご多忙の中を、夜おそくまで、理事会の席にご出席下され、何かと助言、ご支援を賜わりました。

ことは、本校創立10周年記念の行事が、11月1日から一週間にわたって行われましたが、我々はこれを機会に、同窓会の基礎固めをしたい、そのためにも、しっかりした会員名簿を作りたいと考えていたところ、母校で卒業生名簿を発行する準備があると聞きまして、これに協力することにいたしました。11月1日の記念式典には、本会を代表して、籘子会長、初代会長木の内君ら数名が列席しました。11月3日の同窓会総会は、参加者300名に及び盛会でした。議題の一つ、同窓会会則の改正案には、理事会としても、最も時間をかけて審議したもののだけに、可決されてホッといたしました。会計面で申しますと、本会運営のための会費の納入状況は芳しくありませんでしたが、名簿の発行により住所連絡先きがわかって、その後次第に、納入状況も好転して参りました。未納の方は、この際、是非完納下さる様お願いします。48年度事業計画について目下審議中ですが、計画倒れにならないよう、諸兄の絶大なるご支援ご協力を願いたいのであります。

本年度に入って、漸く、足場も固まって、本格的な活動態勢に入ることができたことを喜んでおりますが、まだまだ、安心はできません。われわれ理事等、責任の重大さを再認識して、一層の努力を傾ける覚悟です。

陰に陽に、ご指導ご支援を惜まない母校教職員の方々、父兄会に対し、この場をかりて、厚くお礼申し上げる次第です。

## 昭和46年度卒業生の名簿—追補

前に発行した同窓会名簿中、昭和46年度の卒業生については、当時配属先、住所等が定まらず、現住所欄には連絡先をのせておいたが、その後、配属先もきまり現住所も定まった分を追補としてまとめた。ご利用に便利なように、記載型式をそろえておいた。

## M 6 (昭和47年3月卒業)

飯田 次男	三菱電機㈱空調製部技術一課 ☎ <0542> 85-1111 〒420 静岡市小鹿3-18-1	〒420 静岡市池田9 37-1 三菱電機寮 ☎ <0542> 85-4320
岡野 正幹	東亜燃料工業㈱和歌山工場技術部保全課 ☎ <07378> 3-1131 〒 649-03 有田市初島町浜1000	〒649-03 有田市初島町浜東燃第二楚都浜寮 ☎ <07378> 2-4860
長田 富雄	㈱富士冷凍設備工業社第三工場部設計課 ☎ <03> 685 -1511 〒 136 東京都江東区亀戸5-2-6	〒 424 清水市緑ヶ丘19-1 日立緑ヶ丘 寮404 ☎ <0543> 34-3912
勝又 丈雄	松下電器貿易㈱東京輸入部物資課 ☎ <03> 435-4561 〒 105 東京都港区浜松町2-4-1(世界貿易センタービル6階)	〒 156 東京都世田ヶ谷区船橋3-4-1-13 松下電器貿易松泉寮 ☎ <03> 429-2359
亀井 英雄	東京芝浦電気㈱名古屋工場製造部洗濯課 ☎521-5111 〒 451 名古屋西区葭原町4 2 1	〒458 名古屋市緑区鳴海町伝治山43 東芝鳴海寮 ☎ <052> 621-7403
川口 善道	㈱日立製作所清水工場製造部生産技術課 ☎ <0543> 34-1111 〒 424 清水市村松390	〒 420 静岡市小鹿1-32-5 ☎ <0542> 82-8657
河村 和成	アイシン・ワナー㈱製造部設備課☎ <05667> 9-1111 〒 444-11 安城市藤井町高根10	〒 444-11 安城市川島町中田1 AW 川島寮☎ <05667> 9-0550
北村 清隆	武蔵精密工業㈱MEL ☎ <0532> 25-1211 〒 440 豊橋市植田町大膳39-5	〒 440 豊橋市植田町清水山清水荘3-5 ☎ <0532> 25-1659
木戸 実	㈱明電舎システム開発部 ☎ <03> 492-1111 〒 141 東京都品川区大崎2-1-17	〒 145 東京都大田区東嶺町32-9第1久 ヶ原寮 ☎ <03> 759-1042
木村 純三	山武ハネウエル㈱機器制御事業部機器制御課 ☎ <03> 409-7171 〒 150 東京都渋谷区渋谷2-12	〒 232 横浜市南区浦舟町1-18 ☎ <045> 251-3773
金原 啓純	ヤマハ発動機㈱第三技術部設計課☎ <05383> 2-1111 〒 438 磐田市新貝2500	〒 430 浜松市都盛町299
小山 忠之	ヤマハ発動機㈱磐田工場第一技術部技開一課 ☎ <05383> 2-1111 〒438 磐田市新貝2500	〒 430 浜松市布橋2-19-1 ☎ <0534> 71-1598
斉藤 徹	新潟シンプロ㈱設計課 ☎ <03> -265-8501 〒 102 東京都千代田区九段北1-2-8	〒 157 東京都世田ヶ谷区北烏山町6-31 -2 新潟鉄工烏山寮☎ <03> 300-4511
佐藤 芳栄	千代田化工建設㈱第一事業部 ☎ <044> 26-6361 〒 210 川崎市川崎区池上市新町3-1-45	〒 215 川崎市千代ヶ丘2-9 千代田化 工建設KIKI百合寮☎ <044> 96-1192
佐野 研司	日新興業㈱東京支店工事課 ☎ <03> 571-7607 〒 104 東京都中央区銀座6-6-7	〒 420 清水市水道町69 ☎ <0542> 71-5146
佐野 靖	日産自動車㈱横浜工場第二工務部工務課 〒 221 横浜市中神奈川区西寺尾町2	〒 221 横浜市中神奈川区西寺尾町714 西寺尾寮
白畑 安信	東洋ペアリリング製造㈱専用工作機研究所 ☎ <05383> 2-6121 〒 438 磐田市東貝塚1380	〒 438 磐田市東貝塚1368第1拓東寮 ☎ <05383> 2-9710
鈴木 明	住友機械工業㈱化工機事業部プロジェクト室3PJ ☎ <03> 294-1411 〒 101 東京都千代田区神田鍋町2-1	〒 247 鎌倉市岩瀬1-25-5 住友重機 械清明寮☎ <0467> -45-2286



- 手塚 素久 ㈱金指造船所設計部計画課 ☎ <0543> 34-5151  
〒 424 清水市三保491-1  
〒 424-02 清水市興津中町362  
☎ <0543> 69-1370
- 中川 勝 日立プラント建設㈱上下水道第一課 ☎ <03> -910  
-7171 〒170 東京都豊島区北大塚1-13-2  
〒 115 東京都北区浮間1-13 HPC浮間  
寮 ☎ <03> 966-0869
- 夏目 宗久 ㈱小松製作所粟津工場総務部勤労課 ☎ <0761> 4 4  
-3511 〒 423-03 小松市符津町723  
〒 923-03 小松市符津町78 8 松風寮  
☎ <0761> 44-3360
- 八田 健 荏原インフィルコ㈱技術部廃棄物技術課 ☎ <03> 265  
-0381 〒 101 東京都千代田区神田神保町3-7  
〒 222 横浜市港北区日吉本町2000-14荏  
原日吉寮 ☎ <044> 63-0176
- 樋口 陽二 ㈱日本電装電二部設計一課 ☎ <0566> 22-3311  
〒 448 刈谷市昭和町1-1  
〒 448 刈谷市昭和町1-1 誠和寮  
☎ <0566> 22-3182
- 前島 利為 遠州クロス㈱技術部  
〒 434 浜北市根堅788  
〒 438-01 静岡県磐田郡豊岡村上野部  
812 ☎ <豊岡有線> 3541
- 松岡 敏郎 日産自動車㈱ ☎ <045> 511-1321  
〒 230 横浜市鶴見区大黒町6-1  
〒 221 横浜市神奈川区西寺尾町714  
日産西寺尾寮 ☎ <045> 433-2355
- 増井 康二 武蔵精密工業㈱MEL課 ☎ <0532> 25-1211  
〒 440 豊橋市植田町大膳39-5  
〒 431-04 浜市郡湖西町白須賀1427  
☎ <05359> 9-0107
- 森田 誠 ㈱明電舎変圧器工場技術部生産技術課  
〒 410 沼津市東門上中溝515  
〒 410-03 沼津市原381  
☎ <0559> 66-0597

## E 6 (昭和47年3月卒業)

- 井出 和雄 東芝ベックマン㈱技術部機器技術二課 ☎ <0423> 64  
-3111 〒 183 府中市武蔵台1-1-15  
〒 192-02 稲城市東長沼284 稲城荘
- 海野 俊 高千穂交易㈱名古屋支店技術部 ☎ <052> 951-5311  
〒 460 名古屋市中区錦3-19-17 (名銀ビル)  
〒 465 名古屋市千種区朝日ヶ丘4 高千穂  
交易寮 ☎ <052> 771-6974
- 大城 清 大東製機㈱製造部工作課 ☎ <0559> 71-2520  
〒 411 静岡県駿東郡清水町柿田922  
〒 410-22 静岡県田方郡伊豆長岡町小坂  
918-2 ☎ <05594> 8-2885
- 小沢 賢治 旭化成工業㈱動力課計装係 ☎ <0545> 61-1611  
〒 416 富士市鮫島2-1  
〒 416 富士市松岡1631-8  
☎ <0545> 63-1925
- 加藤 恵一 静岡大学工学部電気工学科 (在学)  
〒 430 浜松市城北3-5-1  
〒 430 浜松市城北2-13-29竹原方  
☎ <0534> 71-0767
- 小林 善人 ソニー㈱生産技術課 ☎ <0586> 78-6111  
〒 490-01 一宮市高田池尻6  
〒 491 一宮市大毛御申塚125  
☎ <0586> 78-4333 (呼)
- 佐野 隆志  
〒 167 東京都杉並区萩窪1-6-6  
☎ <03> 392-5378
- 塩谷 和範 富士通フアコム㈱名古屋営業所計算課 ☎ <931> 6645  
〒 460 名古屋市中区新栄4-2  
〒 466 名古屋市昭和区天神町2-10
- 杉本 晴男 芝電気㈱八王子工場VTR部第2設計課  
〒 192 八王子市大和田町1644 ☎ <0426> 42-0111  
〒 192 八王子市大和田町1645芝電大和田  
寮 ☎ <0426> 44-5208
- 中井 弘美 日立造船㈱堺工場設計部機装設計課  
〒 592 堺市築港新町1  
〒 593 堺市上608 日立造船富木寮
- 西谷 和雄 日本電気㈱玉川事業場データ伝送開発部システム一課  
☎ <044> 41-1111 〒 221 川崎市中原区下沼部 1753  
〒 211 川崎市高津区野川13139NEC野川  
寮 ☎ <044> 76-1842
- 日吉 剛 ㈱日立製作所旭工場超小型設計グループ  
☎ <05615> 3-6111 〒 488 尾張旭市晴丘町池上1  
〒 488 尾張旭市晴丘町東111 第一旭寮  
☎ <05615> 3-6151

- 平井 淳一 鹿島建設(株)仙台支店機材部機電課 ☎ <0222> 61-7111  
〒 980 仙台市二日町1-27
- 前田 元 トーヨーカネツ(株)コンベア事業部システムセンター部システム課 ☎ <045> 441-1441 〒 221 横浜市神奈川区栄町2-40
- 望月 正良 (株)日立製作所小諸工場 ☎ <02672> 2-4111  
〒 384 小諸市柏木大道下190
- 渡辺 清彦 (株)明電舎営業技術部電力第二課 ☎ <03> 492-1111  
〒 141 東京都品川区大崎2-1-17
- 〒 980 仙台市錦町2-3-16 鹿島建設社員寮 ☎ <0222> 23-0810
- 〒 222 横浜市港北区日吉本町918 トーヨーカネツ(株)日吉第一社宅 ☎ <044> 61-5081
- 〒 384 小諸市柏木241-3 日立清月寮 ☎ <02672> 2-4091
- 〒 145 東京都大田区東嶺町32-2 明電舎第2久ヶ原寮 ☎ <03> 759-6666

## C 2 (昭和47年3月卒業)

- 市川 衛 日本オイルシール工業(株)技術管理総轄(特許)  
☎ <0466> 36-1111 〒 251 藤沢市辻堂新町4-3-1
- 泉 克幸 静岡大学工学部工業化学科(在学)  
〒 430 浜松市城北3-5-1
- 岩下 清 シオノギ製薬(株)製造部第一試製課  
〒 660 尼ヶ崎市今福192
- 大獄 修 東洋インキ(株)富士工場技術部二課  
〒 419-02 富士市天間400
- 柏木 忠久 住友化学工業(株)研究所試験課 ☎ <0897> 33-1200  
〒 792 新居浜市
- 勝亦 国臣 (株)三興製作所開発部研究課 ☎ <0463> 22-6030  
〒 254 平塚市長瀬馬入工業団地
- 仲村 秀隆 山之内製薬中央研究所三部注課 ☎ <03> 960-9111  
〒 174 東京都板橋区小豆沢1-1-8
- 小林 修 住友化学工業(株)中央研究所エコノール ☎ <0726> 96-3331  
〒 569 高槻市塚原2-40
- 桜井 充 出光石油(株) ☎ <0834> 21-1100  
〒 745 徳山市
- 清水 克則 三菱電機(株)静岡製作所製造管理部品質保証課  
〒 420 静岡市小庭
- 鈴木 和男 日東電気工業(株)技術研究部分析課 ☎ <0726> 22-2981  
〒 567 茨木市下穂積1-1-2
- 都築 融 日本ペイント(株)化学工業部表面処理部 ☎ <06> 451-5051  
〒 531 大阪市大淀区大淀町北2-1-1
- 原田 一俊 荏原インフィルコ(株)技術部試験課 ☎ <03> 741-3111  
〒 144 東京都大田区羽田旭町11
- 前田 浩史 富士写真フィルム(株)商品開発センター商品技術部  
☎ <03> 453-6211 〒 106 東京都港区麻布2-13-6
- 松本 浩行 小松電子金属(株)製造部FZ課
- 米山 義郎 旭化成工業(株)川崎合成ゴム工場研究課 ☎ <044> 28-7551  
〒 210 川崎市夜光1-3-1
- 勝又 計悟 (株)大川原製作所
- 〒 251 藤沢市藤沢3390 日本オイルシール工業第4善行寮
- 〒 430 浜松市文丘町25-3 桜井方 ☎ <0534> 72-1479
- 〒 532 大阪市東淀川区北大道町2-130 ☎ <06> 328-5139
- 〒 419-02 富士市天間1547 代山寮 ☎ 72-4205
- 〒 792 新居浜市星越町20-1 住友化学成貴寮 ☎ <0897> 33-1200
- 〒 253 茅ヶ崎市矢畑42 ☎ <0467> 85-9928
- 〒 174 東京都板橋区蓮根3-16-1 蓮根独身寮 ☎ <03> 969-4641
- 〒 567 茨木市二階堂179 住友化学南浜寮 ☎ <0726> 22-2863
- 〒 745 徳山市若草町6-37 出光石油若草寮 ☎ <0834> 21-8933
- 〒 420 静岡市三番町44 ☎ <0542> 53-6691
- 〒 567 茨木市下穂積4-7-41 瑞穂寮 ☎ <0726> 22-3067
- 〒 662 西宮市北昭和町7-9 日本ペイント昭和寮 ☎ <0798> 66-0222
- 〒 222 横浜市港北区日吉本町2000-14 荏原日吉寮 ☎ <044> 63-0176
- 〒 227 横浜市緑区たちばな台2-9-1 富士フィルムみどり寮 ☎ <045> 962-3407
- 〒 254 平塚市八幡上高門9の45 小松電子金属男子寮 ☎ <0643> 22-6661
- 〒 211 川崎市中原区上小田中 181 旭化成新城寮 ☎ <044> 77-5911

### 昭和47年度卒業予定者の就職先

昭和48年3月卒業の予定者について、その内定就職先をご覧に入れます。先卒の諸君、よろしくご指導を願いたいと思います。

#### 機械工学科

氏名	就職先会社名
相會 広充	鈴木自動車工業(株)
青木 隆	本田技研工業(株)
青木 義光	高砂熱学工業(株)
秋田 晃男	矢崎空調(株)
秋津 康男	静岡大学工学部編入
秋山 隆芳	旭硝子(株)
浅井 由道	東京芝浦電気(株)
石橋 泰幸	松本亨英語高専
伊藤 哲雄	進学志望
市橋 秀和	オーエスジー(株)
内川 晃	藤沢薬品工業(株)
内川 史彦	進学志望
大多和 勝	(株)リコー
大庭 公一	(株)昌和製作所
岡田 光生	進学志望
落合 利博	石原機械(株)
小野沢信之	日本国有鉄道
栗原 義則	東洋工業(株)
黒田 健直	(株)興銀情報開発センター
小花 光雄	小林鉄工所
小林 栄二	トヨタ自動車工業(株)
小林 辰夫	静岡大学工学部編入
小林 睦司	(株)日立製作所
小林 康弘	(株)日立製作所
後藤 直志	藤沢薬品工業(株)
後藤 充孝	日本クリステンセン ダイヤモンド工業(株) トヨタ自動車工業(株)
榊原 茂美	(株)前川製作所
桜井 康雄	(株)前川製作所
笹原 睦生	千代田化工建設(株)
島田 一	(株)建材社
宿谷 孝一	黒田精工(株)
庄司 茂	矢崎電線(株)
白井 省三	(株)東京機械製作所
新村 伸慈	進学志望
杉山 浩一	スタンレー電気(株)

杉山 高一	国産電機(株)
杉山 泰裕	トキコ(株)
鈴木 賢司	サクラ工業(株)
鈴木 徹	ヤマハ発動機(株)
鈴木 利育	ヤマハ発動機(株)
高村 政明	東名自動車(株)
田中 隆志	(株)小野測器製作所
田中 久晴	(株)鈴木鉄工所
谷 和昌	三菱電機(株)
大長 誠	昭和設備工業(株)
土屋 京太	日産自動車(株)
寺田 肇	富士機工(株)
徳増 英明	進学志望
戸塚 信弘	カシオ計算機(株)
中西 憲男	本田技研工業(株)
中村 菊男	キーパー(株)
中村 正人	新菱冷熱工業(株)
名木 治	甲陽建設工業(株)
野末 辰雄	ミノルタカメラ(株)
袴川 博久	日本電信電話公社
早瀬 雅敏	阪和興業(株)
原 欣資	三菱重工業(株)
牧野 京二	新日本空調(株)
増谷 安宣	武蔵精密工業(株)
松井隆一郎	三菱電機(株)
間野 賢司	(株)電業社機械製作所
水口 昇	(株)日立製作所
森川 修	住友ペークライト(株)
茂出木寿山	東洋熱工業(株)
八木 壮一	東洋ベアリング製造(株)
山田 真久	進学志望
山本 憲一	進学志望
山本 隆司	(株)昌和製作所
山本 浩	山川工業(株)
山本 優	日本電信電話公社

伊藤 幸夫	安藤電機(株)
岩間 圭治	進学志望
岩本 次夫	三菱電機(株)
上杉 直樹	日立プラント建設(株)
上野 晴久	リコー時計(株)
大石 潔志	日立電子(株)
大浜 敏郎	(株)明電舎
萩原 弘道	スタンダード工業(株)
勝又 裕司	信州大学工学部編入
神谷 幸男	日本電気(株)
葛野 直治	関西電力(株)
久保田寿一	東芝電気工事(株)
紅林 誠	東北大学工学部編入
佐藤 一吉	公務員志望
佐藤 正昭	東京電力(株)
島本 豊	藤沢薬品工業(株)
鈴木 利弘	自 営
芹沢 辰吉	高千穂交易(株)
曾根 敏	ヤマハ発動機(株)
鷹野 澄	静岡大学工学部編入
高橋 治久	電気通信大学編入
竹田 雅昭	トヨタ自動車工業(株)
坪井 邦明	(株)日立製作所
寺田 洋一	日昭電気(株)
戸崎 行雄	三菱電機(株)
中村 孝文	三重大学工学部編入
長尾 宣和	バイオニア(株)
長谷川為康	自 営
長谷川 守	矢崎計器(株)天竜工場
早村 信一	(株)日立製作所
垣野 和平	日本電信電話公社
前川 孝	中部電力(株)
増川 秀二	富士通(株)
松野 利博	自 営
松本 良則	日本ユニバック(株)
村松 隆	静岡大学工学部編入
山下 悦治	金沢大学工学部編入
山本 義春	松下電器産業(株)
鷲巣 章	池上通信機(株)

#### 電気工学科

氏名	就職先会社名
池田 清	(株)小野測器製作所

工業化学科

氏名	就職先会社名
飯田 律夫	伊豆合成
泉 清	日本鉱業(株)
岩崎 直人	大阪府
内川 賢二	進学志望
梅川 良明	
遠藤 一成	矢崎空調(株)
大石 洋子	三共有機合成(株)
大橋 由雄	綜研化学(株)

荻野 禎浩	ライオン油脂(株)	田中 正	象印マホービン(株)
垣見 祐二	進学志望	内藤 貞夫	三菱電機(株)
金子 雄二	㈱富士鉄工所	納谷 修	三島製紙(株)
鎌川 俊己	住友化学工業(株)	畑川 和彦	キーパー(株)
河合 幸一	白 鷺	福井 昇	栄光ビジネスマシン(株)
坂田 勘治	静岡大学工学部編入	藤谷 貫剛	静岡大学工学部編入
白井 祥夫	日本乳化剤(株)	前田 薫	進学志望
鈴木 正利	東洋インキ製造(株)	前田 能成	東亜化学(株)
清谷 泰弘	三信工業(株)	山本 和彦	(株)後藤製作所
高草 茂	中京コココーラボトリング(株)	山本まり子	(株)リコー
竹中 保雄	旭化成工業(株)	山本 芳春	本田技研工業(株)
		横井 敏春	トヨタ自動車工業(株)

昭和47年度同窓会業務報告

本年度は、長年待ち望んだ同窓生の名簿の作成、母校創立10周年記念事業への参加、同窓会総会の開催、同窓会会則の改正等について、計画構想を練ること、今までの同窓会が、細々と存続している状態を、しっかりした基礎の上にて直し、発展への足がかりをつくることを重要課題として、新役員理事等本腰を入れて、そのために、数多くの理事会をもって、夜おそくまで、協議、審議した。

尚、48年度についての活動方針、事業計画については、目下審議中である。

47-03-22 第1回理事会・役員 および新理事顔合わせ	生名簿発送準備	47-11-22 第20回理事会、理事世話 教官懇談会
03-29 新役員を選出、活動 基本方針決定	47-07-12 第12回理事会	48-01-18 第21回理事会、3月まで の活動計画決定
04-10 顧問教官に関して、 母校校長に依頼	07-20 同窓生名簿発送	01-25 第22回理事会
04-19 総会準備委員会、会則 改正委員会設置	09-13 第13回理事会・総会 開催計画、方針決定	02-01 第23回理事会、同窓会だ より発行について基本案決定
05-10 第4回理事会	09-20 第14回理事会	02-15 第24回理事会、同窓会だ より編集について
05-25 理事、世話教官懇談会	10-05 第15回理事会	02-16 47年度卒業生に対して、 同窓会に関する説明会 (本校、視聴覚室)
06-01 第6回理事会	10-12 第16回理事会、総会 準備計画決定	03-20 母校、卒業式、新卒業生 に同窓会だより配布
06-07 第7回理事会	10-23 第17回理事会	03-22 会員に同窓会だより発送 配布
06-14 第8回理事会	10-30 第18回理事会、総会 準備	
06-22 第9回理事会、楨文 の印刷完了	11-01 創立10周年記念式典 に代表者列席	
06-28 第10回理事会、楨文 等郵送準備、翌29日発送	11-03 創立10周年記念同窓会 総会	
07-05 第11回理事会、同窓	11-08 第19回理事会、総会終 了後の事務整理	

昭和47年度同窓会役員・理事

会長 鞠子 誠 (M5) ・副会長 中村誠一 (C2) ・事務長 水上重徳 (E5)  
 監事 小池洋三 (E3) ・大池喜久 (M3) 理事 木の内倫弘 (M1) ・細井道泰 (M2) ・小池洋三 (E3)  
 ・加藤昌裕 (E4) ・望月俊和 (M3) ・大地喜久 (M3) ・少野 薫 (E4) ・風間隆太郎 (M4)  
 ・小川吉晴 (E5) ・堀井常雄 (M5) ・大沢幸一 (C1) ・石黒俊一 (M6) ・坂井徳尚 (M6) ・大城 清 (E6)